



遠隔授業科目「情報リテラシー」を終えて

高等教育院 宮原 一弘

2023年度、本学では教養教育カリキュラム改定を実施しました。中でも大きく変化したのが情報科目になります。長きに渡り、PC教室で実際にPCを操作しながら実施してきた科目をすべて廃止、非同期型（オンデマンド型）遠隔授業とした新科目「情報リテラシー」を、新学部を除いたすべての学部における必修科目としました。今回の高等教育院通信では、「情報リテラシー」初年度の実施についてまとめたいと思います。

授業の内容とねらい

「情報リテラシー」では4点の学修到達目標を設定しています。ひと言でまとめると、自分のPCを使いこなして、人に伝えるための情報づくりができるようになることです。

- 大学における学習/研究活動の道具として、コンピュータを使いこなすことができる。
- ネットワークの特性を理解し、コミュニケーションツールとして正しく活用できる。
- 自身の有する知識や調査研究の成果を、新たな情報として表現することができる。
- 情報を文書やプレゼンテーションによって、人に正しく伝えることができる。

各回の内容は次の通りです。

第1回	ガイダンス / 本学における情報環境	第5回	表計算ソフトによるデータ集計
第2回	ネットワークリテラシーとセキュリティ	第6回	グラフ作成 / ソフトウェア間の連携
第3回	ワープロソフトによる文書作成	第7回	プレゼンテーションとスライド作成
第4回	レポートの書き方	第8回	人に伝えるための情報づくり

かつてはコンピュータ・リテラシーと呼ばれることの多かった、いわゆるワープロ、表計算といったソフトウェア操作を想起させる項目が並んでいます。ですが、操作方法の第一歩について丁寧に時間をかけて扱うといったことはしません。基本的な操作はできることを前提として、レポート、論文といった所定の形式を持った長い文書の作成、データサイエンスへのつながりを意識した表計算ソフトの使用、人に正しく伝えることを意識したスライド作成といった内容に重点を置いています。

また本科目は、教養教育科目として初めての試みになりますが、すべての授業をあらかじめ録画した動画の視聴による非同期型遠隔授業、いわゆるオンデマンド科目としました。こういった内容をPC教室で対面で行う場合、学生の進行度合いに差が出てしまって授業の進行に苦慮するといったことが多々ありました。オンデマンド科目とすることで、学生は自身のペースに合わせて動画再生、停止、課題作成といったサイクルを組み立てることができるようになります。

動画はマイクロソフトのクラウドサービス（SharePoint/Stream）で管理、学務情報システムの授業参考情報ページからのリンクをたどって視聴します。学生が作成した課題は、学務情報システムの課題提出機能から提出をします。

授業内容や課題作成に関する質問は、オンライン（学務情報システムにおける個別質問、掲示板機能）と教室での対面実施としました。しかし、どちらも利用は少なく、後に実施したアンケートから「友達や家族に聞いた」「ネット検索で調べた」学生が多いことが分かりました。

履修の状況と評価

本年度の履修登録者数は 979名でした。まず、各回に提出された課題を、「優・良・可・不可」の4段階で評価しました。不可の場合には再提出の機会を一度与えています。それらを総合し、科目としての評価は「合・否」としています。結果は、合：950名、否：3名（人2/芸1）、失格26名（業3/経5/人6/芸10/理2）となりました。概ね想定通りでしたが、途中から課題の提出をしなくなったことによる失格者が多いことは予想外でした。否の3名についても、一度目の提出で不可となった課題の再提出がなく、実質的には失格という状況でした。いずれも次年度での再履修が必要となります。

「自己評価・成長実感アンケート」では、665名から回答が得られました。いずれの設問も「強くそう思う」「そう思う」と回答した学生が75%を超えており、「学修到達目標を達成できたか」という設問では90%に達しています。この数字や、実際に提出された課題を見て感じたことから、この科目設置の目的は概ね達成されたのではないかと考えています。

対面授業からオンデマンド型遠隔授業へと授業形態を変更したことによる点については、まだきちんとした検証はできていませんが、アンケートからは、対面授業よりもオンデマンド型遠隔授業、リアルタイム型遠隔授業よりもオンデマンド型遠隔授業を学生が好んでいる様子が伺えました。

課題と今後

高等学校における「情報Ⅰ」必修修化がまもなく完了し、一年後に実施される大学入学共通テストでは教科「情報」の出題が始まります。このように、情報教育を取り巻く状況は大きく変わりますが、本科目で扱う内容の大きな変更は考えていません。

高等学校普通科での情報教育は2003年度に始まりました。当初は免許保有教員、情報教育を理解している教員がほとんどおらず、コンピュータに詳しいというだけの他教科教員が担当していることが多くありました。そのためワープロ、表計算ソフトの習得でお茶を濁すこともあったようです。そこから20年が経ちました。現在の「情報Ⅰ」ではこれまでの内容を踏襲しつつ、プログラミングが新たな項目として加わりました。教科書を眺めてみると、内容の多様さにも驚かされます。一方、ワープロ、表計算、プレゼンテーションといったソフトウェアを扱う内容は小学校から実施されるようになりました。しかし、大学生になっても、ひと通りソフトウェアを使うことができるというだけで、人に伝えるという視点からの情報づくりができるといったところには至っていません。

「情報リテラシー」のねらいは、そこから脱却をし、人に伝える情報とはどうあるべきかをきちんと考え、作成し、伝えることができるようにすることです。

これらの点、特に情報科目として今後こういった教育をすべきか、こういった能力を学生に期待するかについて、現在の授業実施内容を知っていただいた上でご意見をいただければ幸いです。今年度の授業動画、スライド、実施状況などをまとめた下記Webサイトをご覧ください。

「情報リテラシー」2023年度・まとめサイト

<https://ade.nagoya-cu.ac.jp/lae/infolite2023/>



FD講演会を実施しました！

3月6日(水)、「大学生の発達障害」を題材に、令和5年度FD・SD講演会をオンラインで開催しました。当日は学内外から多くの方が視聴され、こころの発達診療研究センター山田敦朗センター長に、大学生の発達障害について、症状や修学支援におけるポイントを講演いただきました。障害を持った学生に対し、教員個人で悩むのではなく、専門家や、学内全体で組織としてサポートを行っていくことの大切さを学ぶ機会となりました。

★当日の動画を公開しています！

学内イントラ>教務情報>FD講演会・FD講習会・プレFD・ICT研修会等

